

## 聖ジュリー・ビリアート、列聖50周年記念

須沢かおり

### 【列聖への歩み】

2019年6月22日は聖ジュリー・ビリアート(1751-1816)の列聖(カトリック教会の聖人に列せられること)50周年の記念日にあたる。この喜ばしい日にあたり、昨夏のジュリーゆかりの地への旅のエピソードを交え、ジュリーの生涯を辿りながら、聖ジュリーが現代の私たちに何を語りかけているか、再考する。

聖ジュリーの列聖への歩みは彼女の死後66年を経た1881年、ナミュールの司教によって始められた。司教はジュリーの生涯の記録、証言などを教皇庁列聖省(ジュリーの時代はに礼部聖省)に提出した。教皇庁の調査ののち、ジュリーは1889年カトリック教会の「尊者」の称号を与えられた。その後もジュリーについての調査が進められ、1905年、ジュリーの取り次ぎによって病気が治癒した奇跡が3件認められ、ジュリーは1906年「福者」に列せられた。列福に続く列聖への申請の最終審査の過程で、さらに2件の奇跡が認められ、ジュリーは1969年聖ペテロ大聖堂において聖人の列に加えられたのである。

### 【聖ジュリーを辿る旅】

筆者は広島のノートルダム清心中・高等学校で学び、本学での教員生活を送り、人生の半分以上をノートルダムで過ごしてきた。その間ヨーロッパへ出かける機会も多く、研究のために通ったドイツのケルンからナミュールは車でわずか2時間であるにもかかわらず、訪問する機会を逸していた。研究のために他の聖人をめぐる旅はこれまでも幾度も経験してきたが、海外でなじみのない土地へ出かけ、調査・研究するためには、それなりの覚悟、決意というか、「時」がもたらす内的促しなしには実行できないように思う。昨夏の聖ジュリーをめぐる旅も長年心に暖めていたことが「時」を得たように感じられた。

### 【生誕の地、クビリー】

聖ジュリーゆかりの地をめぐるにあたり、まず、北フランスのミシュランの地図を周到に調べた。生誕の地、クビリーは直線距離ではパリから70キロ足らずであるが、公共の乗り物がない。フランスの地方の田舎町は公共の乗り物が疎遠で、学校へ通う生徒の乗るバス以外には通っていないところが多い。クビリーの周辺には聖ジュリーが活動し、修道院を建てた街が点在していた。そこで、パリに降り立った翌日、車で1時間ほどのところにあるナミュール・ノートルダム修道会が



クビリー近郊の風景

創立された街、アミアンでレンタカーをすることにした。アミアンからクビリーへと向かう道のりは、麦畑が広がり、北フランスの繊細な太陽の光が大地に降り注いでいた。聖ジュリーが生きた土地の空気、自然は穏やかで、明るく、そこを訪れる者を優しく包み込む。事前に訪問の日時を連絡していたので、クビリーの修道院のコンゴ人シスター4人が温かく迎えてくださり、昼食をご一緒

した。シスターはジュリーが洗礼を受けた教会にも連れて行ってくださった。聖ジュリーの家とチャペルも見学した。クビリーとその周辺の街は、イメージしていたような貧しく、さびれたところではなく、端正な家々が並び、近くにはお城や古い格式のある教会など北フランスの文化的伝統を残す建造物が見られた。



聖ジュリーの家

#### 【コンピエーニュでの十字架】

クビリーを訪問した後数日間、40キロほど南にあるコンピエーニュのカルメル会修道院に滞在した。かねてより、聖ジュリーのコンピエーニュでの神秘体験に修道会創立の鍵があるのではないかと考えていたので、コンピエーニュで調べたいことがあった。またフランス革命時に殉教したカルメル会の修道女についても調査することになっていた。コンピエーニュはフランスの王家が狩りを楽しんだり、休暇を過ごしていた由緒ある街である。フランス革命が勃発し、クビリーを追い出されたジュリーは姪のフェリシテと共にコンピエーニュに逃れ住み、二人は疎開中、カルメル会と親しい関わりをもっていた。

現在のカルメル会修道院は周囲を森の木々に囲まれた美しい場所にある。修道院長がフランス革命で殉教されたシスターの遺品を見せ、説明をしてくださり、詳しい話を歴史研究者の女性からも聞くことができた。フランス革命時、修道院を追い出されたカルメル会修道女は離散して市内の民家に移り住み、時々密かに教会に集まり祈っていた。その聖アントワヌ教会にジュリーも通い、カルメル会修道女と祈りを共にしていたのである。さらにカルメル会修道女の霊的指導司祭はジュリーを霊的に導いた司祭でもあった。司祭は病床に横たわるジュリーを見舞い、彼女の信仰の深さに感嘆したと述べている。

この苦難の時期に、1793年ジュリーは病床で十字架のヴィジョン（示現）を観る。キリストの十字架のもとに、修道服を身につけた大勢の女性たちが集まっている光景であった。この神秘体験で象徴的に示された道は、ジュリーにとってノートルダム修道女会の創立の原点になった。ジュリー自身、この時期に大きな十字架を経験していた。聖ジュリーの病状は悪化し、全身が麻痺し、話すこともできなくなっていた。またコンピエーニュのカルメル会の修道女16人が捕らえられ、1794年パリでギロチンにかけられ殺害される痛ましい出来事が起こった。コンピエーニュで示された十字架とそこに集まる女性たち、さらに精神的支柱を見失い荒廃した母国フランスと人々への愛は、新しい修道会創立の志へとジュリーを駆り立てた。当時からジュリーのまなざしは、もっとも貧しく、弱い、みじめな境遇に置かれた人々に注がれていた。

### 【アミアンでの修道会の創立】

ジュリーはアミアンへ移り、そこで当面の住居を提供され、後の修道会の共同創立者となるフランソワーズ・ブランに出会う。アミアンにも聖ジュリーのゆかりの建物がいくつかある。世界遺産となっているゴシック建築の美しい聖堂の近くには、ブルドン家の貴族の出身であったフランソワーズ・ブランの家族が住んでいた屋敷が現在も残され、ヌーヴ通りには修道会が創立された家があった場所も見ることができる。聖ジュリーはフランソワーズという良き協力者を得て 1804 年にノートルダム修道女会を創立した。アミアンのジュリーゆかりの場所を歩いてみると、クビリー出身のジュリーが洗練された格調高い北フランスの古都アミアンの文化と教養にふれ、修道会の創立とその発展への礎を築いたことがわかる。しかし、アミアン教区の司教はノートルダム会の新しい精神と会則を受け入れず、ジュリーとその姉妹たちは事実上アミアン教区から追放され、活動の拠点をベルギーのナミュールに移した。



アミアン大聖堂

### 【ナミュールへ】

ナミュールはベルギーという多言語・多文化の国家の、自由で開かれた雰囲気のある街で、修道会の創設期にジュリーがもっとも愛した場所であった。

旅行を計画する時にナミュールの修道院と資料室に連絡を取ったところ、宿泊もどうぞ、というご親切な申し出をありがたくお受けし、ナミュール滞在中は修道院に泊めていただいた。修道院の中庭には聖ジュリーのお墓があり、部屋の窓からもお墓を眺めることができた。ナミュールの修道院では何人かのシスターにインタビューし、貴重なお話を伺い、アーカイブのある遺産センターを見学し、主にコンピエーニュ関係の資料を収集した。私がナミュールに滞在していた時、修道会の誓願記念の年にあたるシスターたちが集まっていた。イギリス、ベルギー、アメリカ、ブラジル、コンゴ、ケニア、ナイジェリアから来られたシスター方とお話する機会に恵まれ、改めて国際的な修道会の懐の大きさを感じた。修道院はノートルダム会の温かいアットホームな雰囲気と、シスター方の熱い祈りの精神に満ちあふれていて、ノートルダム・ファミリーの一員であることを深く感謝しないではいられなかった。



ナミュールの修道院と聖ジュリーのお墓

### 【聖ジュリーと私たち】

聖ジュリーは50年前に聖人に列せられたことによって、全世界のすべての人々から崇敬される存在となった。ジュリーがたびたび口ずさんでいた「善き神」は、彼女自身が観たキリストの十字架に裏付けられて、私たちがどのような苦難、悲嘆のなかにあっても「善き神」を見出すことができるという神への信頼と愛がこめられている。カトリックでは「聖徒の交わり」、「諸聖人の通功」を大切にしている。これはこの世を終えて神のもとにいる人たちは、いつも私たちと共にあり、私たちは聖人との交わりのうちに生きているということである。「ほほえみの聖人」であった聖ジュリーの恵みと導きが豊かにありますように。

---

図書館ロビー中央で6月から7月末まで、キリスト教文化研究所の企画により、「聖ジュリー・ピリアートをめぐる書物」というテーマでの展示を行っています。ぜひご覧ください。